「多施設データベースを用いた、原発性肺癌切除後予後解析についての研究」のお知らせ

原発性肺癌は、年間約 12 万人が新たに発症すると報告されており、主要な癌の中で、胃癌や大腸癌と並んで、死亡に至る率が高いとされています。肺癌の広がりや転移が限定的な病期では、手術による切除が第一選択とされています。近年、外科治療の進歩に伴い、胸腔鏡手術やロボット手術など、体への負担がより少ない手術法が普及してきました。また、手術の前や後に抗癌剤治療や放射線治療を組み合わせる治療法も確立されています。しかし、単一施設では治療や効果の検証ができる患者さんの数に限界があることです。より安全性が高く、より効果のある治療法や診断法の検証には、複数の医療機関でお互いに診察・治療内容を検証することが重要ですが、まだ十分には行われていません。今回、京都大学医学部附属病院・呼吸器外科を中心に関連した医療機関で、これまでに原発性肺癌に対して肺手術を受けられた患者さんの治療経過を解析し、患者さんの状態、肺癌の状況と治癒の状況、より良い手術方法の検討、他の治療法との最適な組み合わせなどを探索する研究を行っています。また、多くの医療機関の情報を持ち寄ることで、稀な肺癌のタイプに対する新たな知見や治療法の開発に結び付くことも期待されます。当院もこの研究に参加し、より良い治療法の確立を通して当院で治療を受けられる患者さんに利益を還元したいと考えています。

＜研究対象＞
2010年 1 月1日から 2019年 12 月31日に期間中に当院で原発性肺癌に対して肺切除術をうけられた患者さん

＜研究期間＞2025 年６月 30 日までを予定しています。

＜研究内容＞
年齢、性別、身長、体重、PS、喫煙歴、飲酒歴、血液検査結果、腫瘍マーカー、血液ガス、呼吸機能、合併症、肺癌（病期・組織型など）に関するデータ、術前化学療法の有無、術前放射線療法の有無、ステロイド薬使用の有無、術式、手術部位、胸腔鏡の有無、リンパ節郭清の有無、血管処理の有無、手術時間、出血、術中および術後合併症、合併症に対する治療の有無、術後治療の有無、転帰などの情報を診療録などより収集します。

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は，当院呼吸器外科を含む参加医療機関でまとめられて、学会や出版物として公表することがありますが、その場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もしそれを望まれない場合やご質問がある場合は担当医師にお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年 12 月６日

京都桂病院　呼吸器外科　部長　青山　晃博